

クルマを超えて、クルマを愉しむ。
Classic Meets Modern and Future

AUTOMOBILE COUNCIL 2023 展示車両情報 追加速報
マツダ、展示車両発表

テーマ: 「ロータリーエンジンの可能性の追求と新しい価値への挑戦」
日本初公開となる「MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV」を含む 4 台を展示

AUTOMOBILE COUNCIL 実行委員会

本日31日（金）、マツダ株式会社は、オートモビルカOUNCIL 2023の展示車両を発表しました。

URL <https://newsroom.mazda.com/ja/publicity/release/2023/202303/230331a.html>

2016年の第1回開催以来、特別展示を含めて日本車メーカーでは唯一の連続出展となるマツダ株式会社は、本年、「ロータリーエンジンの可能性の追求と新しい価値への挑戦」をテーマに、下記4台を展示します。

半世紀以上にわたって可能性を追求し、新しい価値への挑戦を続けてきたマツダを象徴する「ロータリーエンジン」。燃料多様性に挑戦した「マツダ RX-8 ハイドロジェン RE」をはじめとして、国内初お披露目となるロータリーエンジンを発電機として使用するプラグインハイブリッドモデル「MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV」（欧州仕様車）の展示により、ロータリーエンジンの“歴史”と“今”が紹介されます。

■マツダ株式会社出展内容（予定）

テーマ: ロータリーエンジンの可能性の追求と新しい価値への挑戦

展示車両: ①マツダ コスモ AP

ロータリーエンジン搭載の高級スペシャリティカー。1975年発売。他社に先駆けて、51年排ガス規制をクリアしたことなどから、“AP（アンチ・ポリューション=公害対策）”を冠した。



②マツダ RX-8 ハイドロジェン RE

水素でもガソリンでも走行できるデュアルフューエルシステムを採用したRX-8水素ロータリーエンジン車。2006年にリース販売を開始。

③MAZDA MX-30 e-SKYACTIV R-EV（欧州仕様車）（日本初公開）



ロータリーエンジンを発電機として使用するプラグインハイブリッド車。2023年1月のブリュッセルモーターショーで公開。日本初公開

④マツダ MX-81

東洋工業（現・マツダ）が1981年の東京モーターショーで発表したコンセプトカー。